

## 2022年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 そなえ  
代表者・役職名 氏名 ホーム長 亦野 輝世

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 申請事業の名称

入居中の子どもたちとケアワーカーとコミュニケーションと体験

### 2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2016年4月に岩国市に女子の自立援助ホームが開設されました。

この法人は、社会的養護を必要とする子どもたち、また地域の家庭に対して、相談、支援を行ふことで児童家庭福祉、ならびに地域福祉の増進に寄与します。

正会員 28名 賛助会員 5名 (令和4年4月1日時点)

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームそなえは、定員を満たしている状況であり、さらなるニーズに対応するためには利用者や関係機関から意見などを聞くことがあります。

家から離れて自立を目指す子どもたちにとって日々の就労や通学に加えさまざまな社会体験や遊び、息抜きも必要となります。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ホーム入居中の子どもとケアワーカーが野外活動を通して、日頃見れないような子どもの表現や態度を観察し、これから子どもの自立支援に向けてのヒントを得るとともに、より良好な関係づくりを図る。また、公共交通機関を利用、これを自立訓練としても位置付けることになります。携帯電話で新幹線の時刻を調べるなど積極的に行動しました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業に携帯電話でよって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

新幹線に乗ったことがない子どもや遊園地に行ったことのない子どもにとって、とても貴重な体験となったと思います。今回の旅行を終えてホーム全体が一つになり人間関係が良好になれたと思います。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回、子ども達にとって良い機会となったが回数としては少ない為、こういった行事以外の日常生活においても公共機関の利用の機会の提供や、ホーム内の人間関係が良好にしていく必要があります。

### 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。

